

# 市民とつくる「ひろしまの自然史」の土台づくり

— 剥製・標本を“つくる・守る・伝える”人材と体制を育てた1年 —

生物多様性の「保全」から「回復・再生（ネイチャーポジティブ）」へと社会の潮流が移りつつある中で、地域の自然を記録し、次世代へ継承するための“知の基盤”づくりが求められています。本取組は、剥製・標本という実物資料を、市民とともに担い、支えていく体制を地域につくる試みです。

## 取り組みのきっかけ



比和自然博物館 (3/8)



デジタル撮影(3/9)



植物標本教室(2/23)

## 専門家まかせにしない、地域の自然史

北広島町はもとより広島県内では、剥製・標本をつくり、管理・活用できる人材や拠点が不足しています。

一方で、市民の関心はあるものの、学びと実践につながる場は限られていました。

そこで私たちは、剥製・標本づくりを専門家だけに任せず、市民とともに担う基盤づくりとして、イベントや視察、体制整備に取り組みました。

※仮剥製=教育・展示・研究に活用可能な簡易剥製

## 取り組み一覧



仮剥製ワークショップ(12/8)



## 関わる人としくみづくり

### ① 仮剥製づくりイベント (12月)

市民7名と実施し、次年度に向けた実施体制を整理。

### ② 自然史博物館の視察 (3月庄原・12月倉敷)

標本・剥製の管理・活用の知見を導入。

### ③ 植物標本づくりのイベント化

市民参加型で実施し、指導人材を1名→4名に育成。イベント参加人数19名→44名

### ④ 標本・剥製の価値の共有

地域の自然を未来へつなぐ意義を共有。

## 地域・社会への波及



ライトトラップ(8/23)



標本教室案内(2月3月)



ライトトラップ(8/23)

## “見る側”から“つくる側・支える側”の市民へ

剥製・標本という博物館の裏側の仕事への理解が進み、専門家だけに依存しない、地域内で活動を支える体制づくりの芽も生まれました。

本年度はそのための準備の年であり、次年度からは仮剥製の市民参加型の定期実施や収蔵庫の管理体制づくり、アーカイブの充実へと発展させ、地域の自然を“記録し、守り、語り継ぐ文化”を根づかせていきます。



この活動の強み：社会教育施設（博物館）・研究者・市民が協働し、剥製・標本を人材育成と体制づくりまで含めて地域に実装。